

はまます いっぺかだれやフットパス 冬の巻



と き 令和4年1月22日(土)
9:40 浜益温泉集合
参加費 1人1,000円(当日徴収)
定 員 15名(先着順)
問合せ 79-2029

四季を通して浜益の景色を楽しんでもらうフットパス。今年度はコロナの影響を受けて春と秋は中止に。夏の開催以来、久しぶりのフットパスになります。今回はスノーシューを履いて川下実田線を歩き、浜益温泉を目指します。



2年目の
アンテナショップ



夜のいきもの観察会



ギフトセット開発
(継続中)



秋の魅力たっぷり旅



フットパス夏の巻

緊急事態宣言に翻弄された年でしたね。動けない間にギフトセットを作り上げるなど、その時でできることをしてきました。

年末に向けて・暮らし情報

灯油の注文と
くみとり予約は
お早めに！

岸本スタンド営業時間
31日は15:00まで

浜益海運
くみとり予約は10日まで

新商品登場！

ふじみやさんから、抹茶どら焼きが登場しました。

密封された袋を開けると、ふんわりと抹茶の香りが漂います。しっとりした抹茶生地に、たっぷりのあんが入っていますが、ほどよい甘さでついペロリと食べてしまいます。



本店だけの限定販売なので、お土産にも喜ばれることでしょう。

まち協の区内情報紙

いま・はま

発行 第19号

令和3年12月1日
浜益観光まちづくり推進協議会
(事務局)

79・2029

まち協HP



Facebook



まち協通販



地域の宝を知ろう

第1回 荘内藩ハママシケ陣屋跡

川下・八幡神社の奥にある「荘内藩ハママシケ陣屋跡」は、歴史的な遺構を留めているとして昭和63年に国の指定史跡となりました。

しかし、地元の私たちは、この陣屋跡についてどれだけ知っているのでしょうか？
どのような歴史があるのかを知ってもらえるよう、数回に分けて紹介していきます。

<そもそも、陣屋ってなに？>

当時で言うと、代官・奉行などの役所、衛兵の詰所のことを言いました。

荘内藩がハママシケに作った陣屋は、警備のほか開墾・開拓にも力を注いでいたため、奉行所をはじめ長屋や湯屋、火薬庫など様々な建物があり、城下町のようになっていたようです。

<そもそも、荘内藩ってなに？>

今は都道府県となっていますが、1871年（明治4年）までは〇〇県とは言わず〇〇藩という呼び方をしていました。

荘内藩は今の山形県鶴岡市を中心とした辺りです。



地図参照→

<荘内藩が北海道へ来たワケ>



北海道のしっぽみみたいな部分、今の松前町には松前藩がありました。その頃、ロシアが北海道を侵略しようと近づいていて、日本（幕府）はそれを阻止しなければなりませんでしたが、松前藩は戦いが得意でないため、北海道を守るか心配になったのです。

そこで幕府は、東北の6つの藩に北海道の各地を分け与えて、警備をするよう命令したのです。

荘内藩は日本海に面する「ハママシケ（浜益）」「ルルモッペ（留萌）」「トママエ（苫前）」「テシホ（天塩）」「テウレ（天売）」「ヤングシリ（焼尻）」を領地として与えられました。

<陣屋には本陣屋と脇陣屋がある>

例えるなら、本陣屋＝石狩市役所、脇陣屋＝厚田支所・浜益支所のようなもの。荘内藩は、はじめ、本陣屋をルルモッペにしようと考えていました。しかし、彼らは与えられた領地のはるか南にある、厚田～今の寿都町歌葉（うたすつ）まで見張らなければならなかったのです。

また、ルルモッペよりハママシケの方が暖かく、冬を越しやすいと考え、本陣屋をハママシケにしたのです。



	1854年 (安政元年)	1855年 (安政2年)	1857年 (安政4年)	1860年 (万延元年)	1861年 (文久元年)
日本の出来事	日米和親条約締結	箱館開港 (現・函館)			
浜益の出来事			増毛山道 濃屋山道 開削	ハママシケに 荘内藩本陣屋 設置	荘内藩の入植事業 が本格的に始まる (藩士・郷土含め約500名)

～次回につづく～